２０１１年（平成２３年）７月２４日　日曜日

デーリー東北新聞　掲載

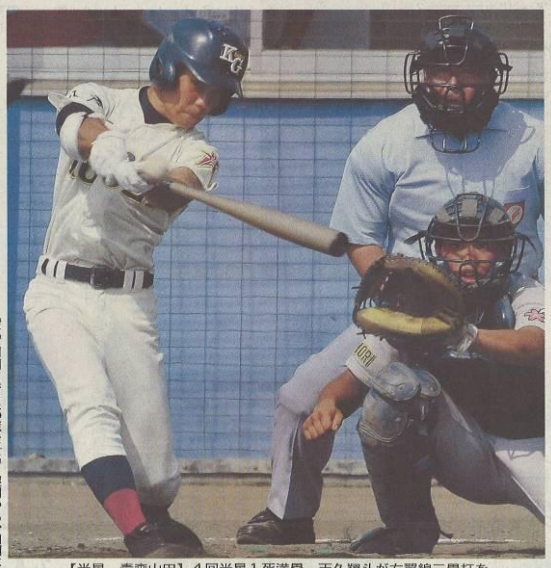
光星 乱打戦制す

粘る青森山田振り切る

準々決勝

									1015
光星	0	9	0	6	0	0	0	0	0
青森山田	2	0	0	3	5	0	0	0	0

（光）秋田－松本
（青）野村、山崎、佐藤、木村、山崎－大前
▽本塁打　山崎（青）
▽三塁打　天久（光）
▽二塁打　秋田2、岸本、田村2（光）木浪、山崎、大前（青）
▽試合時間　2時間33分
（球審＝西村、塁審＝三橋、李沢、田辺、小松）



【光星―青森山田】４回光星１死満塁、天久翔斗が右翼線三塁打を放ち、12―2とする＝青森市営

【評】四回までに15点を奪った光星が辛くも逃げ切った。2点を先制された光星は二回、松本が左前打で出塁したのを皮切りに、打者14人の猛攻で9点を挙げた。四回も打者11人で6点を追加し、一時は13点差とした。

青森山田は投手4人をマウンドに送るなど、出場17人の総力戦を展開。13点を追う展開から、四回は5連打で、五回は山崎の本塁打などで計8点を奪ったが、大回以降は得点できなかった。

光　星15―10青森山田

	打数	安打	点	振球
【光　星】				
9	3	3	0	0
6	3	1	0	0
8	3	1	0	0
5	3	1	0	0
3	3	1	0	0
7	3	0	0	0
4	3	2	1	0
2	3	1	1	0
1	3	1	1	0
10	3	1	1	0
【青森山田】				
9	4	2	1	0
8	4	1	0	0
6	4	1	1	0
7	4	1	0	0
5	4	1	1	0
4	4	2	2	0
3	4	2	2	0
10	4	2	2	0
2	4	1	1	0
1	4	2	1	0

【光　星】打安点振球
3 0 0 0 1 0 0 0 0
6 1 0 0 3 1 0 0 0
8 2 1 0 3 1 0 0 0
5 2 2 1 2 1 0 0 0
3 2 2 1 3 1 0 0 0
7 2 1 0 0 0 0 0 0
4 2 2 1 1 0 0 0 0
2 2 1 1 1 0 0 0 0
1 2 1 1 1 0 0 0 0
10 2 1 1 1 0 0 0 0
【青森山田】打安点振球
9 3 0 0 0 0 0 0 0
8 3 0 0 0 0 0 0 0
6 3 1 0 0 0 0 0 0
7 3 0 0 0 0 0 0 0
5 3 1 1 1 0 0 0 0
4 3 1 1 1 0 0 0 0
3 3 1 1 1 0 0 0 0
10 3 1 1 1 0 0 0 0
2 3 2 2 0 0 0 0 0
1 3 2 2 0 0 0 0 0

投手
【光　星】回数　手数　打者　安打　四球　奪三振　失点　自責点
久保田　3　39　14　6　1　2　7　7
岸本　3　36　13　4　1　2　6　6
木浪　1　12　4　2　0　0　2　2
【青森山田】
佐藤　6　91　34　11　2　5　10　10
木山　1　16　4　2　0　1　0　0

審判　野口　佐木山

焦点

光星エース秋田10失点

欠けていた攻めの投球

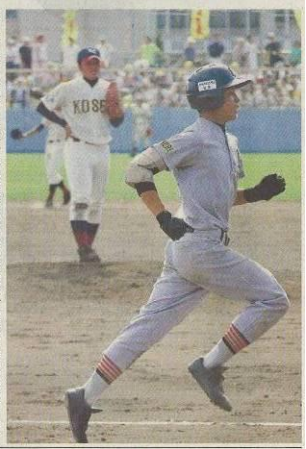
青森県内高校野球界を引っ張る両雄の執念が激しくぶつかり合った。計41安打が飛び交った壮絶な打撃戦は、光星に軍配が上がった。仲井宗基監督は「押されながらも粘り勝った」と一定の評価。一方、昨秋の県大会で完封した相手に10失点だった主戦秋田教良は「エースナンバーを背負うピッチングができなかった」と納得していなかった。

2点を先制されて追走に火が付いた光星打線は四回表までに大量15点を奪った。五回コールド勝ちもうついたが、その勝ちも、県内屈指の右腕秋田がめった打ちにされた。甘くなった球はあったが、秋田の状態自体は悪くなかった。われ、四、五回だけで計10安打8失点。「勝ちたい思い、自分の配球ミスもあった」とかばった。

秋田は「喜一憂し、熱くなって自分を出し過ぎた」。もっとも、六回以降は立ち直った。「みんなに『打ってやるから』と励まされて開き直れた」と秋田。打線のさらなる援護がなかった中で、相手の攻撃を毎回4人で終わらせた。が、「ここぞの場面ではスライダーを使えなかった」とも。

女房役の松本は「甘い球や逆球はあったが、秋田の投げたい球を投げられた」と評価。「攻めの気持ちはボールに伝わる。そういう攻めの投球をしなければいけなかった」。10失点完投のエースに、喜びの表情はなかった。

（出川しのぶ）



【光星―青森山田】５回、青森山田の山崎晃大朗（手前）に２点本塁打を浴び、10―15と５点差に詰め寄られた光星の主戦秋田教良

3イニングで3投手KO

○…光星打線は二、四回を任せ切り、15安打15得点。青山崎晃大朗、主戦佐藤大輝の3イニングで29人の猛攻。森山田の先発野村幸平、

コールド目前 意地の追い上げ

○…誰一人諦めていなかった。絶対逆転するつもりだったが…。青森山田の中川昂主将は試合後、おえつを漏らしながらも気丈に語った。

青森山田に投手陣が安定せず、四回表を終えて2―15。屈辱の五回コールド負けも現実味を帯び始めた（投球なし）自分自身に（投手を）代える度胸もなかった。秋田には、最初から何があっても完投させるつもりでいた。プレッシャーを乗り越えてもらわないと。

青森山田・山崎晃大朗中堅手（五回、右越え2点本塁打）打ったのは真っ直ぐ。狙い球はなく、とにかく後ろにつなごうと思った。

携帯サイトで高校野球速報

デーリー東北新聞社は携帯サイト「デーリー東北モバイル」（有料）で全国高校野球選手権青森大会の試合経過を速報します。イニングごとのスコアのほか、決勝は1打席ごとの速報をお届けします。QRコードから簡単アクセス！

デーリー東北新聞社提供